



全労連青年部ニュース

# YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を



ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>

ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

## 全労連青年部第31回定期大会開催

スローガン

今こそ考えよう 個人の尊厳大切に 憲法生かして  
青年の要求がかがやく組合へ

～語って動いて、、、失敗したっていいじゃない！若者だもの～

全労連青年部は、2018年9月22日～23日に全労連会館2Fホールにて第31回定期大会を開催しました。全労連・野村幸裕事務局長、全労連女性部・大西玲子事務局長、農民連青年部・渡辺信嗣事務局長から来賓のあいさつをいただきました。

全国から集まった青年の活発な討論と交流により、青年ならではのとりくみや思いが旺盛に語られ、18年度方針の確立に向け熱く議論を交わしました。役員体制は、4名が退任し新任4名を含む12名を選出しました。

＼青年部新体制！新たな仲間と団結してガンバロー！！／



## 青年が直面する問題と現状

1日目は、日本医労連が3回目となる「医療・介護・福祉職場ではたらく青年職員に対するハラスメントについての調査」について報告、自治労連は「自治労連青年アンケート」のとりくみについて報告しました。分散会では青年の要求がどこにあるのか、どのように実現していくのかという課題や、ハラスメントのない職場づくりを実現するためにはどうしていったらよいのかなどの課題について、各地のとりくみや青年の悩みを交え意見交換をしました。

1日目、2日目を通しての全体討論では、12名(6単産、4地方組織)から発言がありました。青年が集まり、悩み、時には意見をぶつけあいながら目標に向かう体験が青年の声や思いの実現になると団結しました。

## みんなで助け合い、個人を大切に。そして青年らしく元気に！

八重田副部長は総括答弁で「全国各地の活動や思いが聞けてよかった。憲法の大切さを再確認し、青年の手によって憲法カフェなどのとりくみが各地で広がっていることを知った。世代交代の組織も多く、人と人とのつながりの中で、私たちの今後をどう見据えていくか考えるきっかけにもなった。みんな違ってみんないい。個性を認め合い、一人ひとりを大切に、ひとりぼっちの青年をなくそう。長所を伸ばし、自分にできることをとりくみ助け合っていこう。青年らしく元気に！失敗したっていいじゃない、みんなでがんばろう！」と述べ、最後に稲葉常任委員の「団結ガンバロー！」の音頭で大会は締めくくられました。

参加した代議員からの感想では、「色々な問題提起があった。自分の単組や県労連に持ち帰って共有しなければと思った」、「みんなの報告を聞き、また話を聞いてもらうことで楽しい時間を過ごすことができた」、「大会に参加して改めて学ぶこと考えることをやめずに進んでいこうと決意した」などの声が寄せられました。



### \* ワークルールシンポジウム開催 \*



定期大会終了後、全労連青年部主催・就職連絡会協賛でワークルールシンポジウムを開催し、32名が参加しました。「ワークルール教育を広げよう！」のテーマで東京法律事務所の笹山尚人弁護士が講演、「ワークルールを広げよう実践編」として首都圏青年ユニオンの山田真吾事務局長が権利手帳を使いながら実際に起こり得るトラブルを提示、会場でシミュレーションしました。参加者からは「非常に役に立った。権利手

帳をもっと活用したい」などの感想が寄せられました。また「自分たちの地域や青年部でも働く権利を学び、広げていきたい」との声が上がり、早速各地でとりくみが広がっています。

# 大会宣言

全労連青年部は、憲法を守りいかす取り組みに力を入れてきました。憲法カフェを経験した青年が、自分の地域で憲法カフェに取り組んだり、3000万署名宣伝に取り組むなど青年が、自ら行動し、とりくみを前進させてきています。

安倍首相は、総裁選に三選したことを勢いに、日本を「戦争する国」に変えようと憲法9条に自衛隊を明記する自民党の改憲条文案を、国会に提出しようとしています。さらに国会の私物化、働き方改革やカジノ法案の強行など、青年の生活や職場に直接大きな影響を及ぼします。自分の仕事と憲法を結びつけて、憲法が変われば私たちの暮らしもかえられてしまう危険性を学び、自分の言葉で青年がうたえていく必要があります。

全労連青年部第31回定期大会では、青年一人ひとりの思いに寄り添い、ともに行動する青年部の存在が強調されました。

大会討論では、働き続けられる職場を求めて実態調査をした経験や、平和や憲法に関心を持って運動をしていくことの大切さを共有し、それぞれの職場の働き方や青年部活動への思いを語り合いました。

討論の中では、「着ぐるみを着て署名活動したら楽しく署名活動ができた」「自分がわくわくする活動をしたい」「要求を実現すると活動が楽しくなる」「青年が楽しく活動するが組織拡大につながると確信している」など、自分たちが楽しみながら活動することの大切さが語られました。

職場の課題に対しても「職場で起こる問題を話し合って共有することが大事」「日常的なつながり作りが大事」など、青年をひとりぼっちにさせないことが必要です。

学習や署名宣伝などのとりくみを行う中で「署名宣伝行動に取り組むことが新たな学び、学習のきっかけになった」「組合員として知識をつけないとたたかえない」「見て聞いて身近に感じる学習が心に響く経験につながる」など新たな気づきにつながり、青年の成長につながっています。

いま青年が集まり、様々な問題に対して自分の思いを語り合う経験が、青年の学びや成長につながり、着実に活動を前進させています。

どこに青年のねがいや要求があるのかをつかむことが大切です。要求を実現するためには、多くの仲間とつながり、あきらめずに仲間と一緒に模索しながら行動を起こすことが重要です。青年自らが組合運動をつくっていく主人公として活躍していきましょう。

全労連青年部は全力で奮闘することをここに宣言します。

2018年9月23日

全国労働組合総連合青年部第31回定期大会